

【「情報Ⅰ」 情報社会の問題解決、情報システムの活用】①

【大分県立別府翔青高等学校】

学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

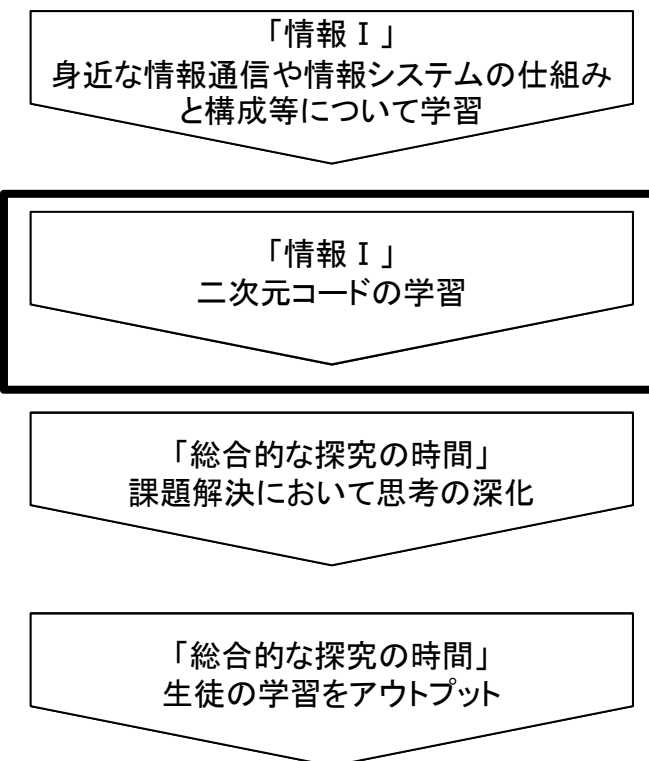
情報システムのことを学ぶ当単元において、二次元コードに着目し、日常における社会問題の課題解決に必要となる思考や取り組み態度を育成する。

評価規準

知・技：情報システムに対する興味関心や理解を深めることができる。

思・判・表：学校生活の中における課題について課題解決のための提案ができる。

教科等横断的な視点での取組



- ・「情報Ⅰ」と「総合的な探究の時間」を連動させた授業に取り組んでいる。
- ・「情報Ⅰ」で学んだ内容を、「総合的な探究の時間」の中にも意識して扱い、生徒が問題解決の要素として活用ができるような工夫をしている。
- ・授業における学習評価については、Web上のフォーム作成ツールを活用している。生徒の学習の習熟度を、Web上のフォーム作成ツールをとおして単元の終わりごとに取得している。
- ・定期的に動画の撮影を行っている。動画で生徒の状況を振り返ることで、指導の改善につなげる。
- ・学習途中の生徒の状況を把握。躓きのある生徒への指導の充実を意識。

【「情報Ⅰ」 情報社会の問題解決、情報システムの活用】②

【図①】

授業の様子



【図②】

授業支援アプリケーションを活用し、常に生徒の状況把握

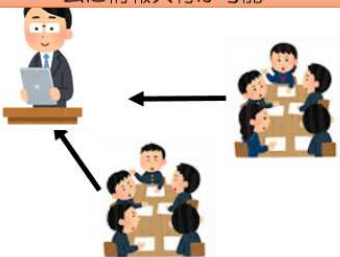
生徒の学習状況をモニタリング



生徒同士で画面を共有。互いの画面を見たり、教材の編集ができる



グループで教材を共有してリアルタイムに情報共有が可能



学習途中での生徒の状況把握を実施

○「情報Ⅰ」⇒年度当初から、情報活用能力の核となる役割を意識
・当單元においては、実社会にある情報システムを例に挙げながら、通信プロトコルや情報システムの構成などの、基本的な知識技能の習得に努める。また、身近に存在する「JANコード」や「二次元コード」の特徴を学習。

○「総合的な探究の時間」⇒主体的で対話的な深い学びの深化
・地域の課題解決について考える中で、情報システムを活用した取組を授業に計画する。

・QRコードを活用した場面を設定し、ICTを効果的に活用。(例:アンケートなどをWeb化。その際のURLをQRコードにして活用。)

○成果

・「情報Ⅰ」での学びを、「総合的な探究の時間」を活用することで学習内容の理解を深化とともに、情報活用能力の育成に繋げている。
・「総合的な探究の時間」と連動することで生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながる。

・授業支援アプリケーションの活用で、学習途中の生徒状況を把握。

●課題

・「情報Ⅰ」の年間指導計画の改善。

・「総合的な探究の時間」が、「情報Ⅰ」の時間を補完するための扱いにならないように注意が必要。

・「総合的な探究の時間」の指導をする上で、他の教科・科目の教員との連携。

情報Ⅰと総合的な探究の時間（以下、総探の時間）の連動という事例だが、情報Ⅰの学びを深化する上で、総探の時間との親和性は非常に高く有効だと捉えている。生きる力として必要となる情報活用能力は、情報Ⅰの学びの中で基本的な要素が培われていくものである。多くの学校が1年次に情報Ⅰを履修する教育課程が編成されており、2年次以降に情報Ⅰの学びの内容を深化させるためには総探の時間が非常に適しているものだと思う。そのためにも、各学校においては、総探の時間の各学年における年間指導計画の立案には情報科の教員が参画することができた方が、情報Ⅰでの学びを意識した指導計画を立てることが可能になるのではないかと考えている。

また、学習評価においては「定期的に動画を活用して振り返りを行う」、「学習途中の生徒の状況の把握に努めている」の2点を評価している。定期的に動画を活用することで、授業内では観察しきれない生徒の様子などを確認でき、丁寧な評価が可能になると同時に、自身の授業を見直すことにつながることも大きな効果があるものである。指導と評価の一体化を推進するためにも、常に自身の授業を見直す姿勢は大切にすることが必要である。そして、生徒の学習途中の状況把握に、全県立高校で導入をしている授業支援アプリケーションが有効活用されている。教員が、生徒の学習途中にアプローチすることで、生徒自ら学習を調整しながら、粘り強く学習に取り組む態度等の育成につながるものだと考えている。